

# コロナ後の社会を考える ～環境福祉学の視点から～

社会福祉法人恩賜財団 済生会 理事長  
地球・人間環境フォーラム 理事長  
炭谷 茂

## 1 最近の動きから

### (1) 新型コロナの蔓延

#### ① 新型コロナウイルスの発生原因

1) 中国奥地の森林のコウモリ体内に生息  
森林破壊により人間と接点  
環境破壊 → 人間の健康への被害

2) SARS、MERSも環境破壊が原因

重症急性呼吸器症候群 (SARS)

2003年 広東省 ハクビシン、タヌキ、ネズミ等

中東呼吸器症候群 (MERS)

2012年 中近東 ヒトコブラクダ

3) 環境破壊が継続する限り新型のウイルスは、出現  
哺乳類、鳥類に170万種の未知のウイルス  
うち82万種の未知のウイルスが人に感染のおそれ  
→ 感染症常在時代として対策

#### ② 新型コロナの海外の被害事例

低所得者や有色人種は、感染率・死亡率が高い  
劣悪な住環境  
人との接触が多い職業  
医療へのアクセス、ワクチン接種

#### ③ 国内において新型コロナ感染者、医療従事者に対する差別・排除の発生

近年の日本社会の人の結びつきの弱体化が背景

### (2) 地球温暖化の被害

#### ① 地球温暖化の進行

1906～2005 0.74℃の上昇

19世紀までの1000年間で±0.2℃の変化

② 地球温暖化による被害は、貧困地域、社会的弱者に集中  
影響が発生しやすい地域に居住  
予防や被害対策の資金・技術の不足

・海面上昇による被害

貧困なバングラデシュ、南太平洋島嶼部に集中

・巨大化するハリケーン・台風等の被害

2005年 カトリーナ

死者 1,800人以上 15兆円の被害

ルイジアナ、ミシシッピ等の貧困な黒人に被害が集中

・熱中症等健康被害

2003年 フランス等ヨーロッパに熱波

高齢者を中心に3万5千人死亡

日本

平成22年(2010)記録的猛暑1,731人死亡の

うち65歳以上1,372人

③ 地球温暖化対策の矛盾

1) 2005年 ブッシュ政権がバイオエタノールの振興  
穀物価格の急騰 貧困者に打撃

2) 電気自動車等搭載の燃料電池に必要なレアメタル  
需要急増 → 生産国の無秩序な採掘

→ 貧困地域の立ち退き

貧困地域の環境悪化

住民の健康被害

(3) 子どもを巡る深刻な問題

① 問題の状況

1) 小・中・高校でのいじめ

令和3年度 62万件 → 4年度 68万件(過去最多)

2) 校内暴力

小・中・高校での校内暴力

令和3年度 76千件 → 4年度 95千件

3) 不登校、引きこもり

小・中学校不登校

令和3年度 24万人 → 4年度 30万人(過去最多)

4) 自殺件数

小・中・高校生 令和3年度368人→4年度512人

## ② 問題の背景

### 1) こどもの環境の激変

仙田満「こどもを育む環境 蝕む環境」  
(朝日新聞出版)

20世紀前半まで 道や広場での遊び

1960年代 車とテレビにより外遊びと内遊びが逆転

1990年代 子どもへの犯罪の増加 内向化

2000年代 スマホの席卷

### 2) 平成10年の「青少年教育活動研究会」

(代表 平野吉直教授)の調査

現在は国立青少年教育振興機構が継続調査

自然体験の減少

広場や海、山での遊び

星、日の出、夕焼けの観察

自然体験と道徳観・正義感の関係

### 3) 環境省からNPO「青少年自立支援センター」に委託

平成15年度～17年度

引きこもり、不登校の43名の子どもたちに自然体験

すべて改善傾向

### (4) 環境と福祉の双方を考えなければならない

平成16年 環境福祉学会を創設

## 2 環境福祉学の応用

### (1) 環境の福祉への活用

公園、里山等の整備

オクタヴィア・ヒルの事業

結核等感染症対策のために19世紀後期にオープンスペース

### (2) 福祉の環境への貢献

コミュニティガーデン運動

### (3) 環境と福祉の融合

#### ① ソーシャルファーム(社会事業所)

平成元年 東京都「ソーシャルファーム設立促進条例」制定

障害者、引きこもりの人、元受刑者等社会的弱者の仕事としてリサイクル、有機農業等環境の仕事 →

人とのつながりの形成へ「ソーシャルファームジャパン」

として2千社の設立を目指す

#### 1) 栃木県小山市社会福祉法人「パステル」

知的障害者が「桑の葉プロジェクト」

桑の葉のパウダーでパン、クッキー、うどん等

平成27年(2015)9月、養蚕業を開始

令和2年(2020)12月、笠間稻荷神社の繭の品評会で

最優秀賞

2) 大阪市一般社団法人「緑の風西川」  
障害者、元受刑者がカバンの製造  
北海道のエゾシカの皮の活用 →「マタギプロジェクト」

3) 埼玉県飯能市NPO「たんぽぽ」  
引きこもりの人、長期失業者が 固定種による自然農業

4) 東京都秦野市一般社団法人「インクルーシブ」  
障害者による古本販売  
インターネットで販売

## ②環境福祉のまちづくり

1) ブラジル・クリチバ「緑の交換事業」  
スラム街で分別したごみと野菜を交換  
中村ひとしが指導

2) コンパクトシティ  
富山市  
LRTを活用し、マイカーの抑制  
病院、図書館などを集中化、住宅の移転

## 3 これからの社会のあり方

(1) 学生時代から「福祉国家」への夢を抱いてきた  
1942年 ベヴァリッジ報告(福祉国家の理論的基礎)

5つの巨悪 貧困、劣悪な環境、病気、無知、怠惰  
→ 環境は福祉国家の重要な要素

(2) 戦後ヨーロッパ、オセアニア、日本は、福祉国家建設を目指す

(3) 福祉国家の限界  
1970年代に頂点を迎え、限界  
経済成長の低下、高齢人口の増加  
環境に被害  
経済成長による公害の深刻化 →「福祉と環境の矛盾」

(4) 新自由主義(小さな政府)の席卷  
1980年代 民間活力の重視

(5) 新自由主義への反省  
格差の拡大、社会の分断  
地球環境問題の深刻化

(6) 「環境福祉国家」への展望  
北欧・ドイツ  
「緑の福祉国家」

誰も快適な環境の中で社会的弱者も地域社会の一員として暮らす「インクルーシブ社会の形成」を目指す